

6週 人間創造

質問 10. 神は人間をどのように創造されましたか。

答え I 神は人間を、男と女とに創造し、知識と義と聖においてご自身の形に従い、すべての被造物を支配するようにされました。

解説

男と女

神が人間を男と女とに創造したのは、互いに助け繁栄させるためでした（創 1:27-28）。神はアダムを造られる時にチリから取って造り、エバはアダムのあばら骨によって造りました。その理由は、アダムとエバの結合に対する目的があったからです（創 2:18）。アダムは確かにそれを感じていました（創 2:23）。ここで確かなのは、エバの霊魂はアダムから造られたのではなく、神さまが直接造られたことです。

霊魂と体

人間は霊魂と体によって構成されています。霊魂は、神が体に息を吹き入れた霊的実体です（創2:7）。それで神を「すべての霊の父」と呼ばれます（ヘブル12:9、民16:22、27:16）。人間の霊魂はすべての面で体とは異なります。体は目に見えますが、霊魂は目に見えません。体は死にますが、霊魂は死にません。

聖書には、人間が、霊、魂、体と構成されているように語る聖句があります（Iテサロニケ5:23、ヘブル4:12）。しかし、ルカの福音書10章27節によれば、人間を心、霊魂の構成と語っていますが、これは、他の構成体を意味するものではありません。従って、このような聖句をもって三分節と主張するのは無理があります。

神の形

人間が神の形に造られたのは、神に似せて、あるいは、類似に造られたということです（創1:26）。そうだと行って、神さまが肉体的な形があると考えてはなりません。神の形に似せて造られたという言葉は、人間の霊魂が、知識と義と聖にあつて神に似ているという意味です（コロサイ3:10、エペソ4:24）。

従って人間は、初めに造られた時は義を持っていて、その悟りには知識がありました。つまり、その意志には正義があり、その情緒には聖さがありました。また人間は神に対する知識があり、神の律法に対する知識と、すべての万物に対する知識もありました。さらにその意志には、正しいことと義務を行おうとする自発性がありました。そして、その感情は純粹で清くありました。それゆえ、神をまことに、純粹に愛することができ、その人間が慕い求めるのは唯一の神だけでした。このように人間は神を人生の最高の目的とし、ただ神を喜び楽しみました。

被造物を支配せよ、という命令

神は人間に、すべての被造物を支配する権威を与えました。もちろん人間は、道徳的で霊的な存在として、卓越な存在だったので、自分自身の意志や情緒を支配でき、他の劣等な被造物を治めることができました。人間が墮落する以前は、この世のすべての被造物は、人間に服従しました。

墮落が、もたらしてくれた効果

人間は知的であり責任ある存在でした。しかし、墮落以降は、神が付与した知識、義、聖を完全に失ってしまいました。さらにアダムの子孫であるすべての人類は、それを完全に失った状態で、生まれながら腐敗性を持つようになりました。ただ、聖霊の、新生させる御業によらなければ人間は霊的なものを選ぶこともできず、選べません。特に、神と関連して人間は、神に仕えることを断り、嫌います。そして人間の意志は常に悪いことに偏っています。自分は善をしたいと願っても、それを行うことができません。ただ新生によって、そのような腐敗の奴隷となったところから、解放されなければならないのです。